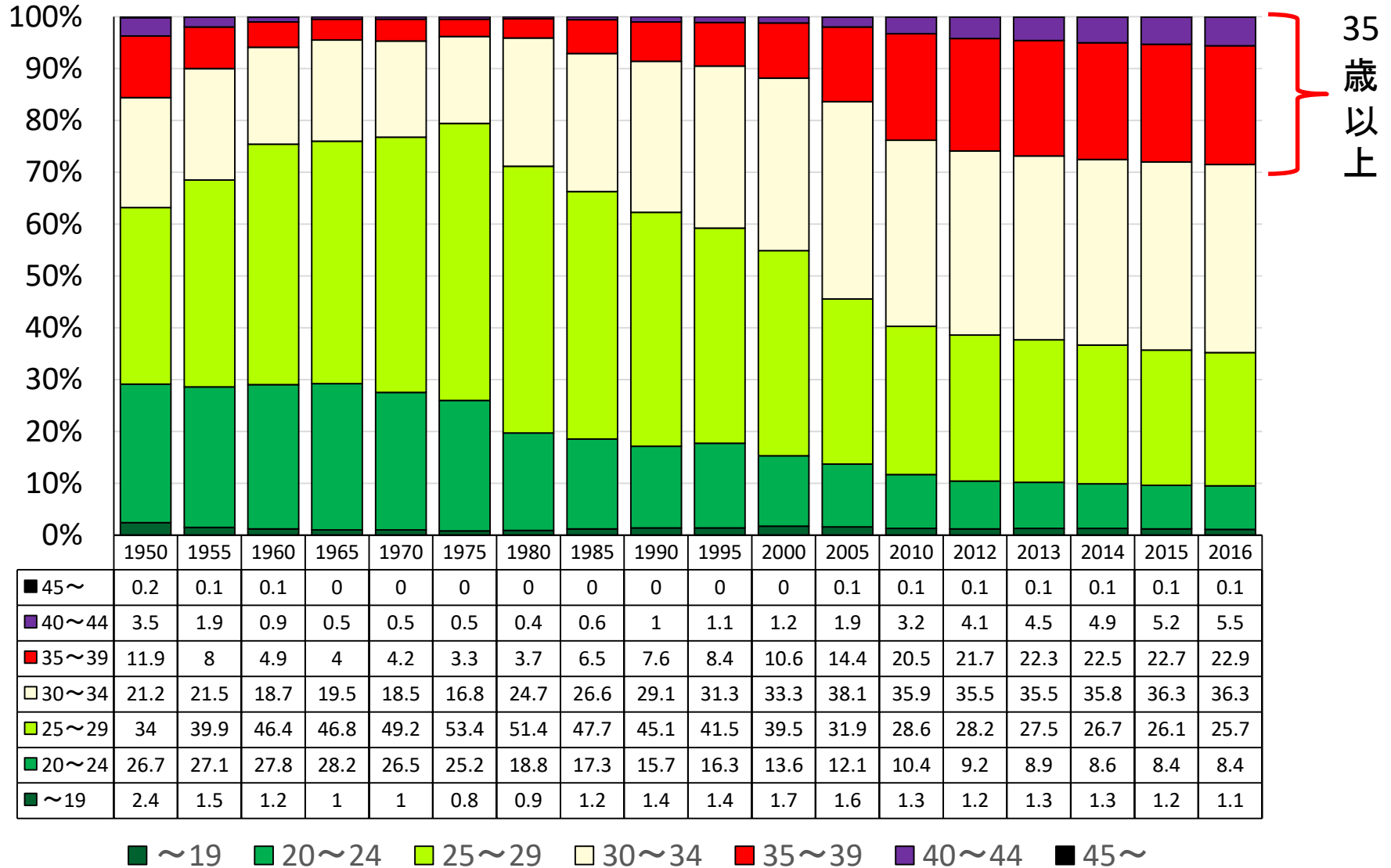


周産期医療の動向と東京都における 産婦人科医師数の推移と在院時間

—日本産婦人科医会施設情報調査2019, 勤務医部会アンケート調査より—

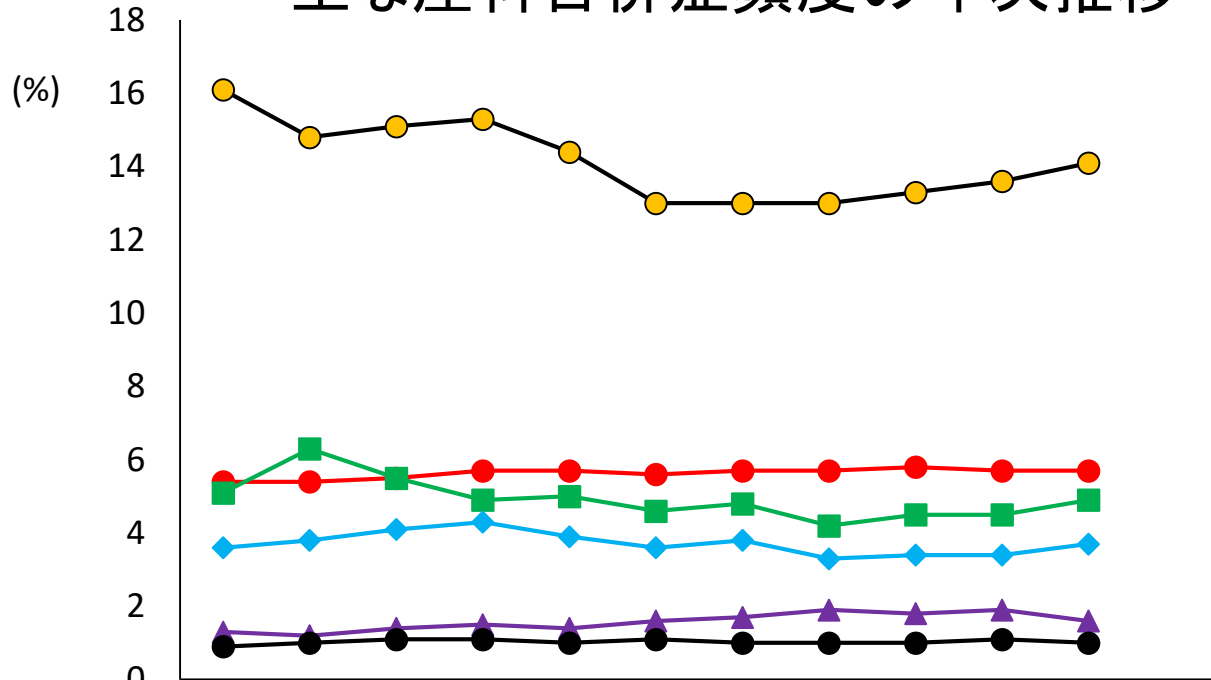
日本産婦人科医会 常務理事
日本医科大学
中井章人

母体の年齢別出生数の割合 (厚労省人口動態調査)



母体の出産年齢が高齢化し、35歳以上が3割近くに増加している。

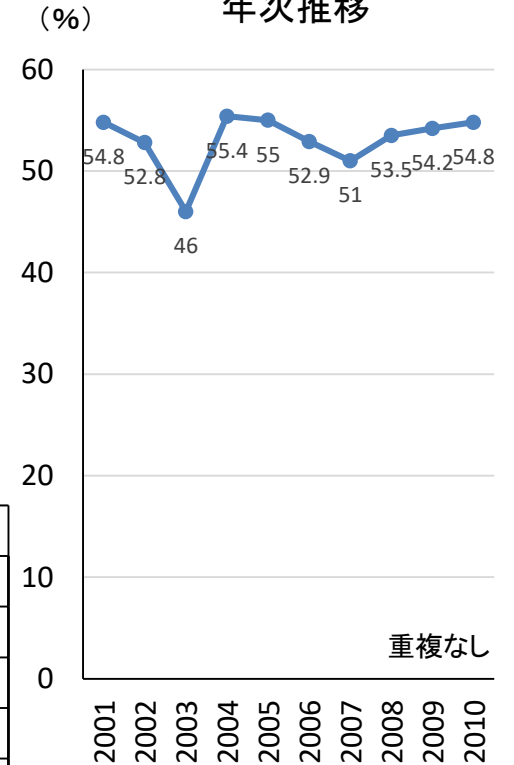
主な産科合併症頻度の年次推移



重複あり

	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	平均
● 切迫早産	16.1	14.8	15.1	15.3	14.4	13	13	13	13.3	13.6	14.1	14.2
● 早産	5.4	5.4	5.5	5.7	5.7	5.6	5.7	5.7	5.8	5.7	5.7	5.6
■ 胎児発育不全	5.1	6.3	5.5	4.9	5	4.6	4.8	4.2	4.5	4.5	4.9	4.9
◆ 妊娠高血圧症候群	3.6	3.8	4.1	4.3	3.9	3.6	3.8	3.3	3.4	3.4	3.7	3.7
▲ 前置胎盤	1.3	1.2	1.4	1.5	1.4	1.6	1.7	1.9	1.8	1.9	1.6	1.6
● 早剥	0.9	1	1.1	1.1	1	1.1	1	1	1	1.1	1	1

産科合併症全体の頻度年次推移



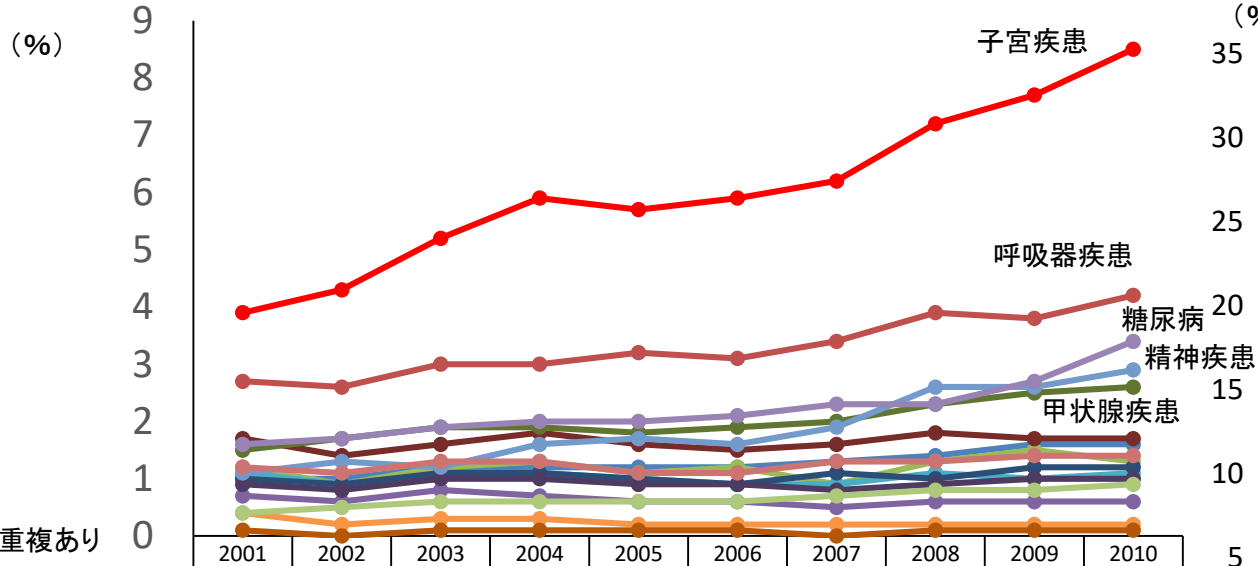
重複なし

切迫流産(約15%), 妊婦貧血(約15%)
など全産科合併症を加えた頻度

日本産科婦人科学会周産期登録2001~2010年単胎584,378例(日本医科大学 作成)

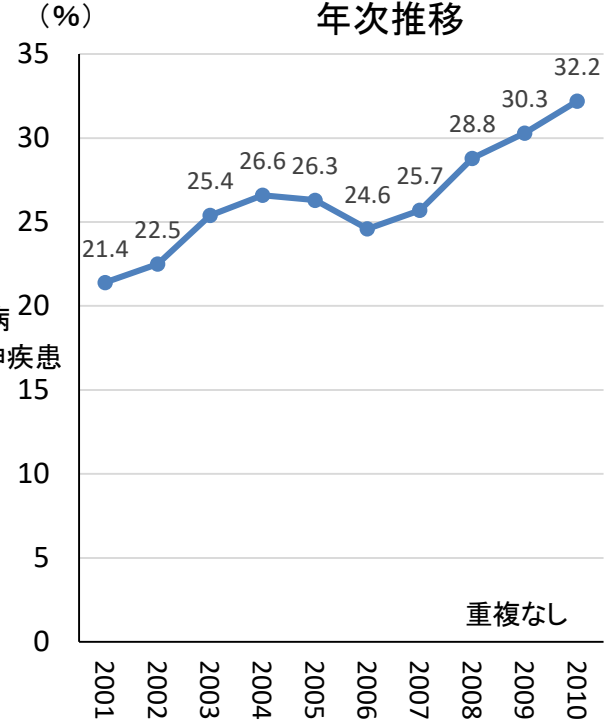
産科合併症は全妊産婦の54.8%に発生するが、その発生頻度は横ばい。

主な偶発合併症頻度の年次推移



	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
中枢神経疾患	1	1	1.2	1.2	1.2	1.2	1.3	1.4	1.6	1.6
呼吸器疾患	2.7	2.6	3	3	3.2	3.1	3.4	3.9	3.8	4.2
消化器疾患	1.2	0.9	1.2	1.3	1.1	1.2	0.9	1.3	1.5	1.3
肝疾患	0.7	0.6	0.8	0.7	0.6	0.6	0.5	0.6	0.6	0.6
腎疾患	1.1	0.9	1	1.1	1	0.9	0.9	1.1	1	1.1
泌尿器疾患	0.4	0.2	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
血液疾患	1	0.9	1.1	1.1	1	0.9	1.1	1	1.2	1.2
心疾患	1.7	1.4	1.6	1.8	1.6	1.5	1.6	1.8	1.7	1.7
甲状腺疾患	1.5	1.7	1.9	1.9	1.8	1.9	2	2.3	2.5	2.6
骨・筋疾患	0.9	0.8	1	1	0.9	0.9	0.8	0.9	1	1
子宮疾患	3.9	4.3	5.2	5.9	5.7	5.9	6.2	7.2	7.7	8.5
外傷・中毒	0.1	0	0.1	0.1	0.1	0.1	0	0.1	0.1	0.1
精神疾患	1.1	1.3	1.2	1.6	1.7	1.6	1.9	2.6	2.6	2.9
自己免疫疾患	1.2	1.1	1.3	1.3	1.1	1.1	1.3	1.3	1.4	1.4
本態性高血圧	0.4	0.5	0.6	0.6	0.6	0.6	0.7	0.8	0.8	0.9
糖尿病	1.6	1.7	1.9	2	2	2.1	2.3	2.3	2.7	3.4

偶発合併症全体の頻度
年次推移

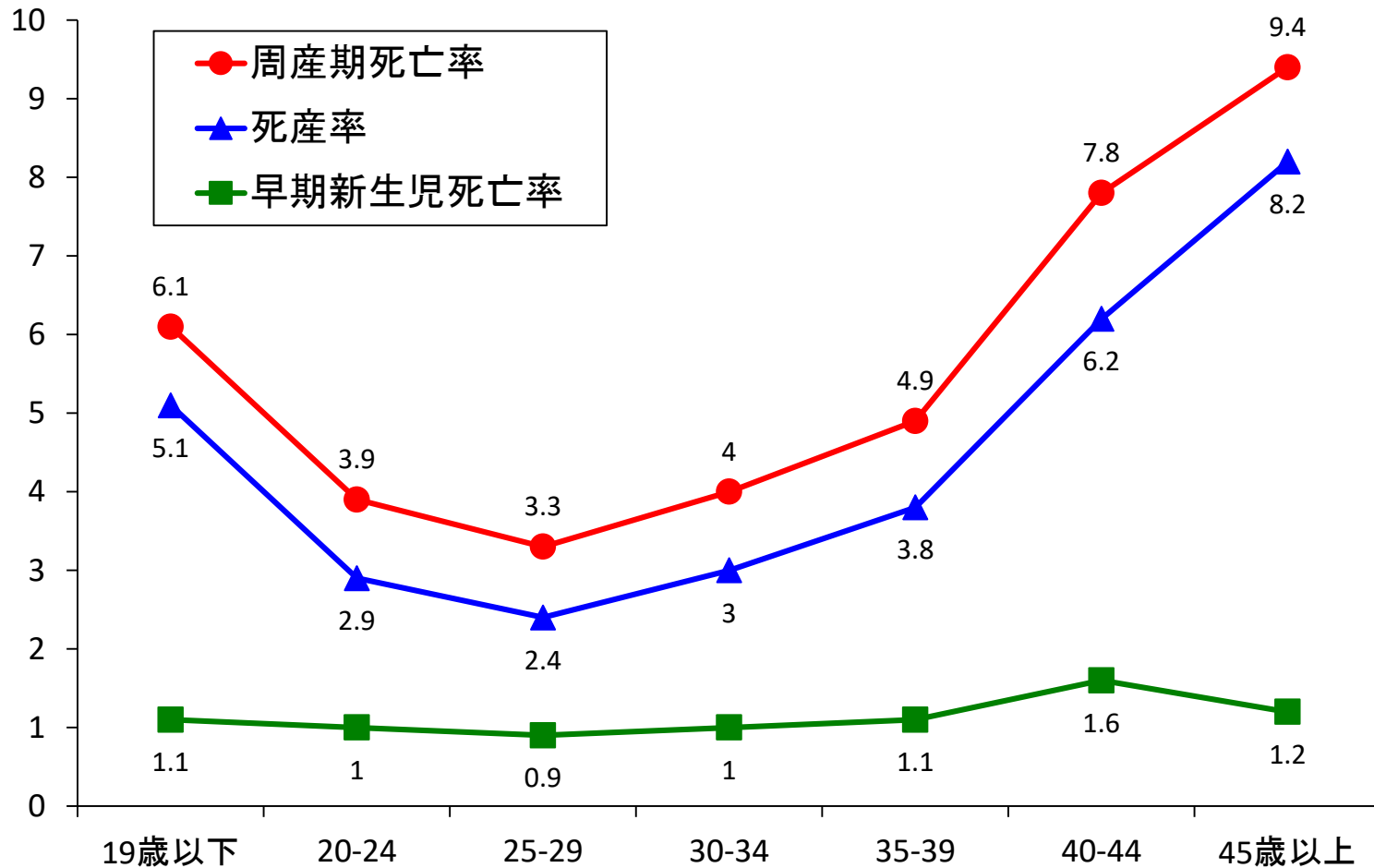


偶発合併症(妊娠していなくても発症する疾患)は2001年に比較し2010年には10%以上増加し、全妊産婦の32.2%を占める。偶発合併症の増加は妊産婦の高齢化に依存している。

年齢階級別周産期死亡率

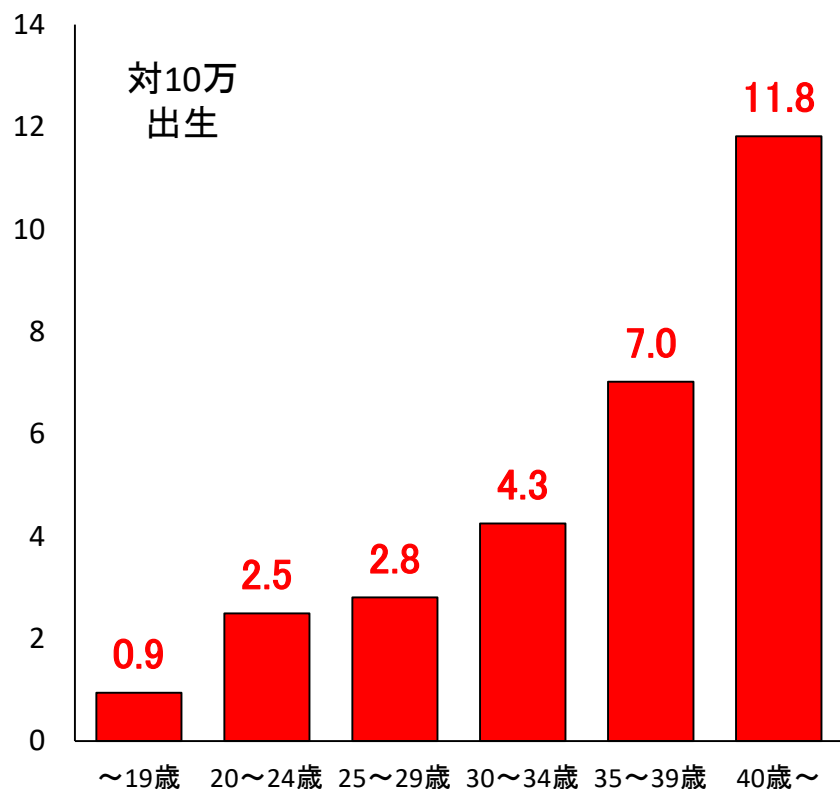
厚生労働省人口動態統計2012年より作成

出生千対

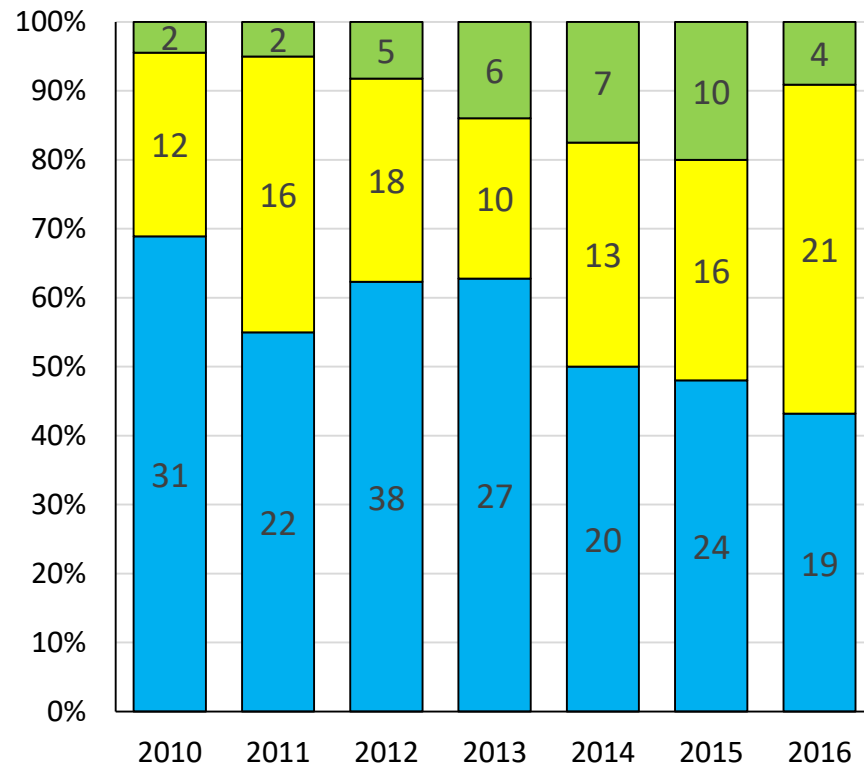


周産期死亡率は、年齢の増加に伴い上昇し、45歳以上では20歳代に比較し、3倍近くになる。加齢に伴う周産期死亡率の増加は主に死産率の増加による。

年齢別の妊産婦死亡率 (2010-2016年)



直接・間接産科的死亡の年次推移



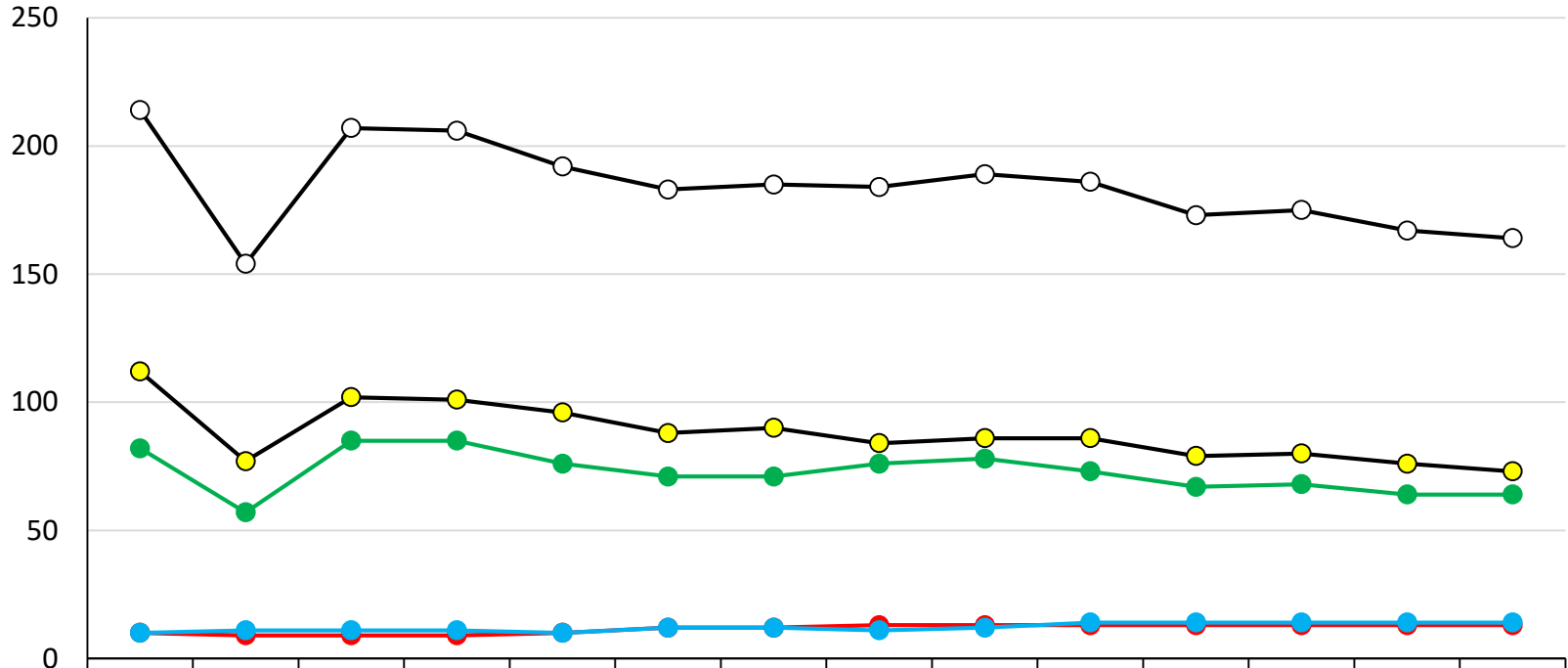
■ 直接産科的死亡 ■ 間接産科的死亡 ■ 偶発他

直接産科的死亡:産後出血,羊水塞栓など
間接産科的死亡:脳出血,心・大血管疾患など

日本産婦人科医会:妊産婦死亡報告事業(2010～2016年)に集積した事例の解析結果(n=338)

妊産婦死亡率は年齢の増加に伴い上昇し,40歳以降では20歳代前半の4.7倍.
脳出血,心・大血管疾患などによる間接産科的死亡の割合が,増加傾向.

東京都の分娩施設数の推移

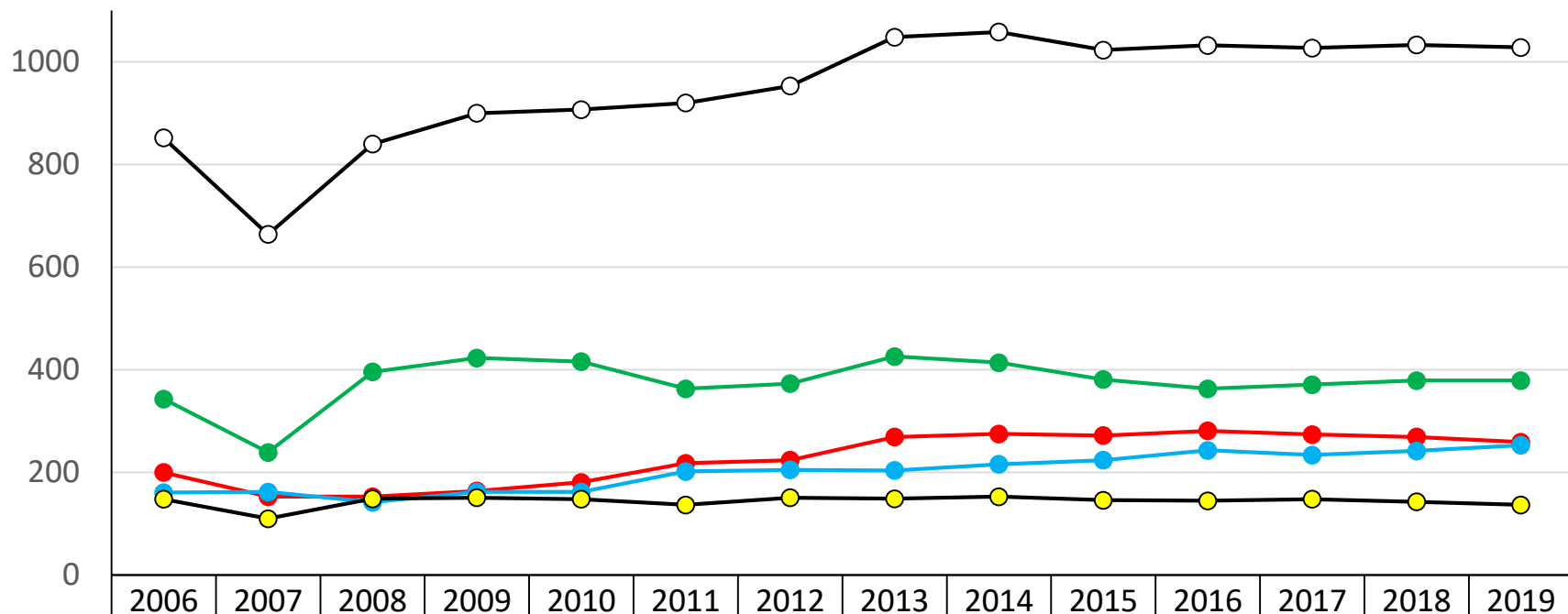


	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
● 総合	10	9	9	9	10	12	12	13	13	13	13	13	13	13
● 地域	10	11	11	11	10	12	12	11	12	14	14	14	14	14
● 一般病院	82	57	85	85	76	71	71	76	78	73	67	68	64	64
● 有床診療所	112	77	102	101	96	88	90	84	86	86	79	80	76	73
○ 総数	214	154	207	206	192	183	185	184	189	186	173	175	167	164

日本産婦人科医会施設情報調査2019(回収率95.8%)

13年間で214施設から164施設へと50施設減少した。
減少は、指定のない一般病院と有床診療所が主体。

分娩施設の常勤医師数の推移

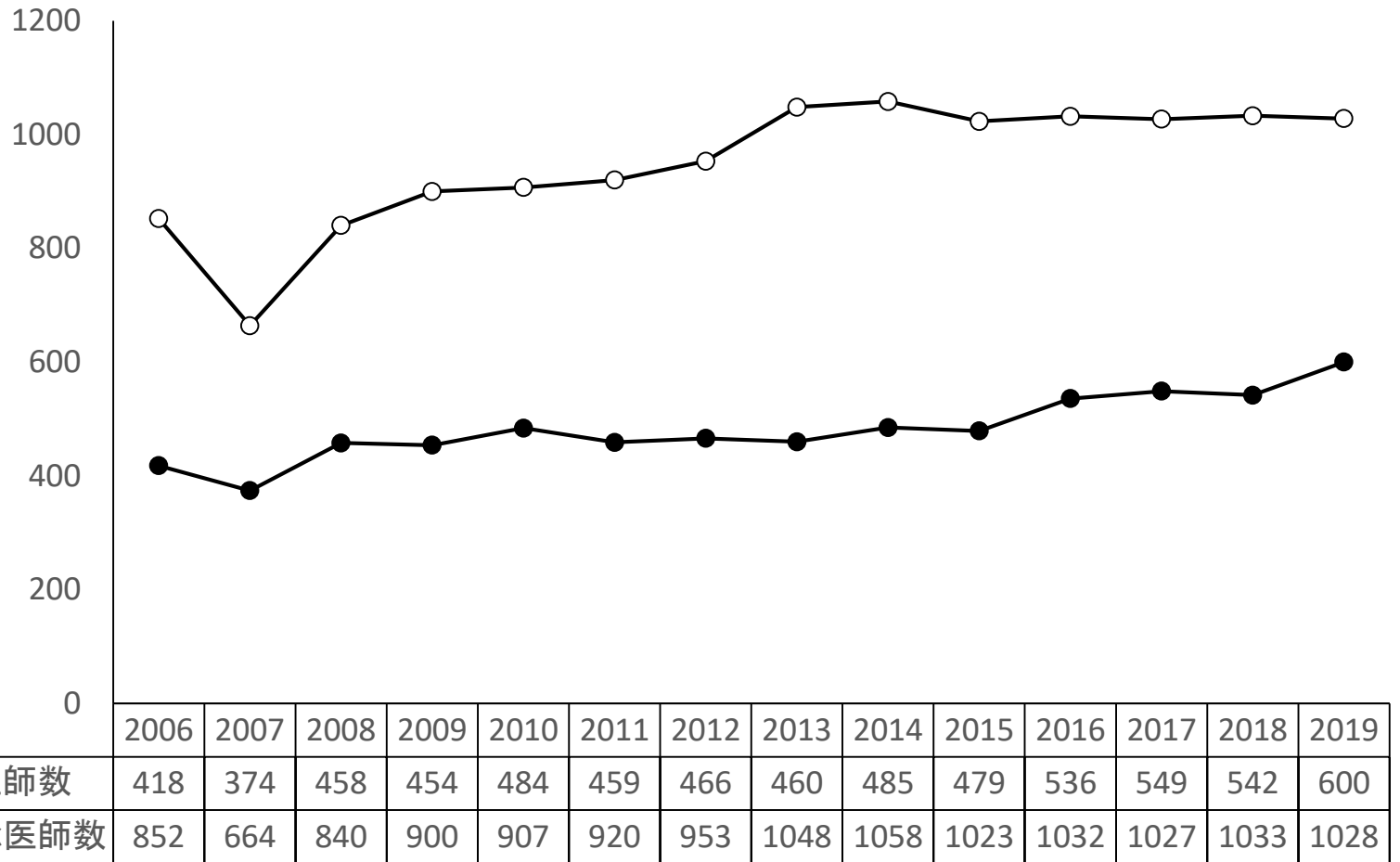


	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
● 総合	200	153	153	164	181	218	224	269	275	272	281	274	269	259
● 地域	161	162	142	162	162	202	205	204	216	224	243	234	242	253
● 一般病院	343	239	396	423	416	363	373	426	414	381	363	371	379	379
● 診療所	148	110	149	151	148	137	151	149	153	146	145	148	143	137
○ 総医師数	852	664	840	900	907	920	953	1048	1058	1023	1032	1027	1033	1028

日本産婦人科医会施設情報調査2019(回収率95.8%)

2006年以降、増加傾向であった医師数は2014年をピークに減少傾向に転じている。

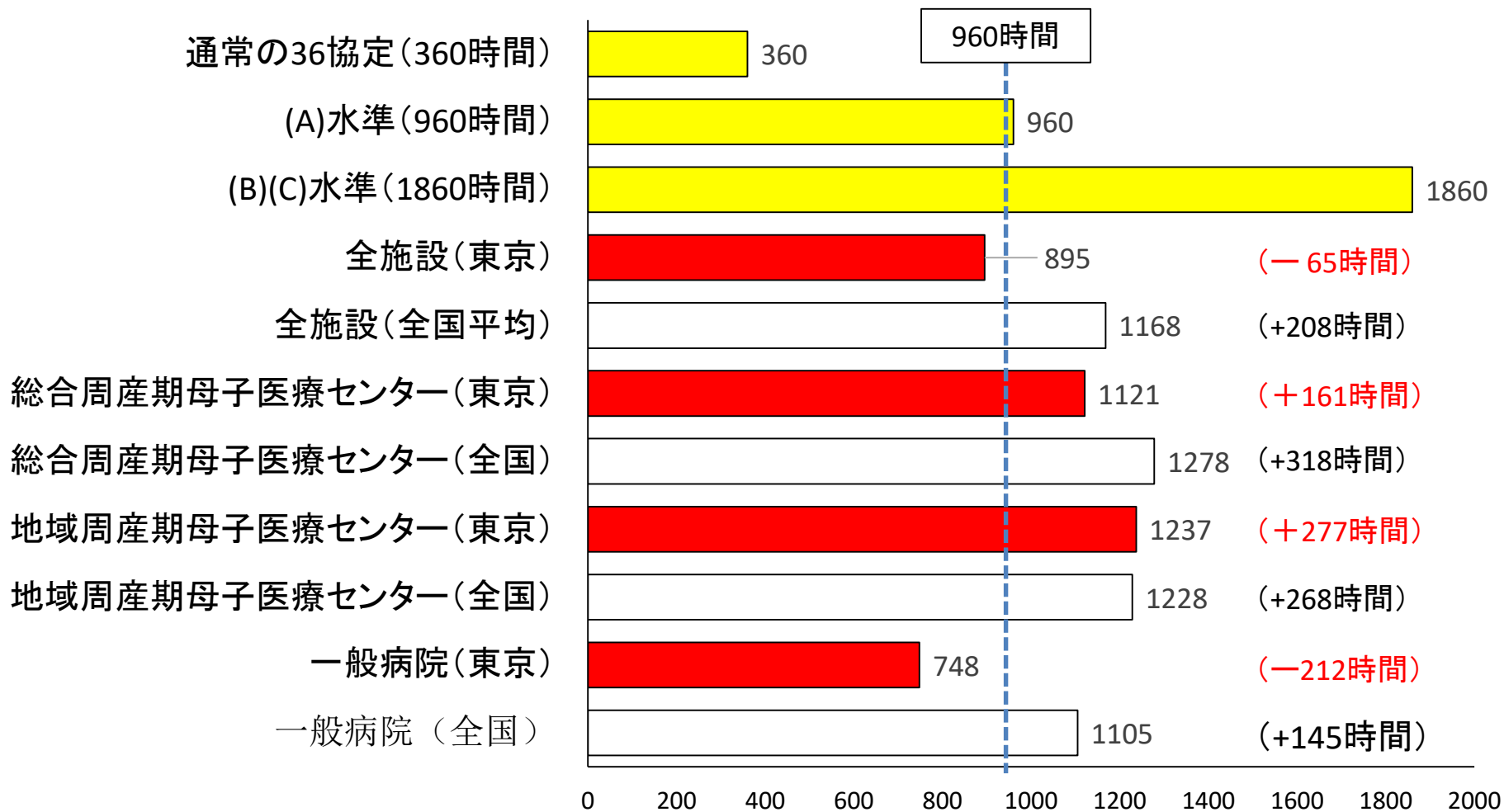
医師数の推移



日本産婦人科医会施設情報調査2019(回収率95.8%)

全体の医師数は2014年以降も増加しているが、その要因は
婦人科施設(特に診療所)の増加による。

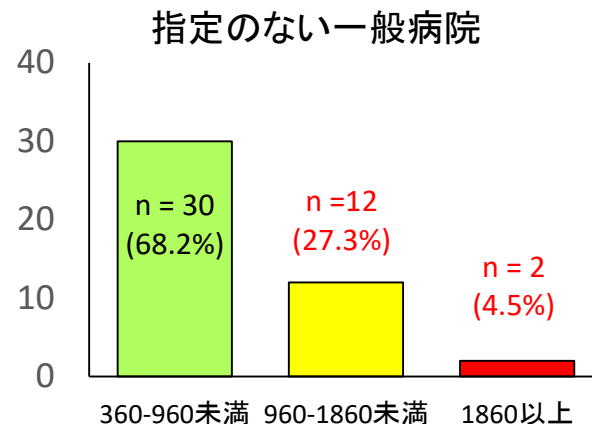
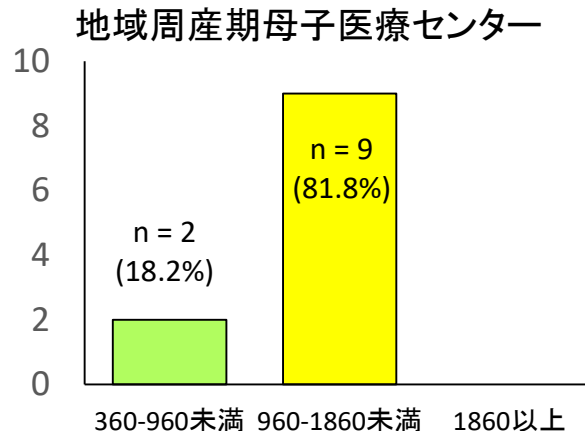
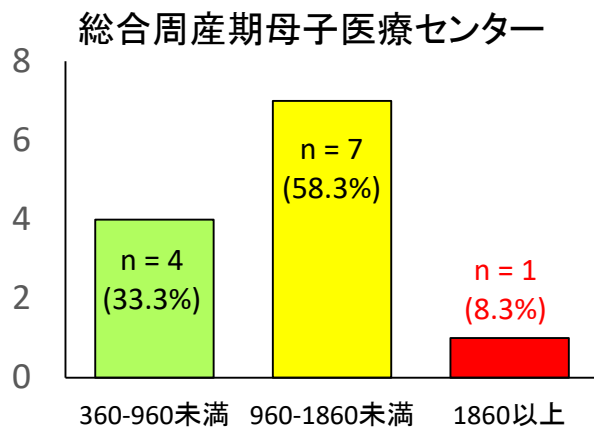
36協定で締結できる時間外労働時間上限(時間/年)と実際の時間外在院時間



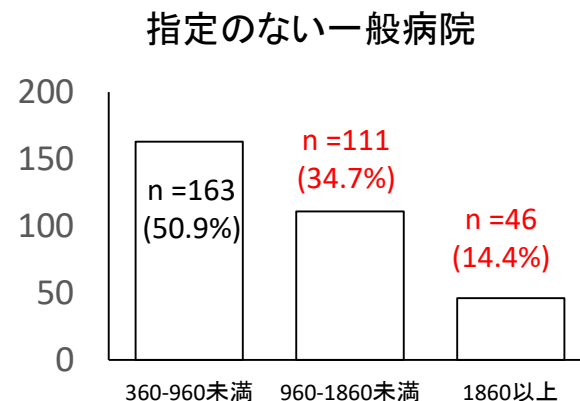
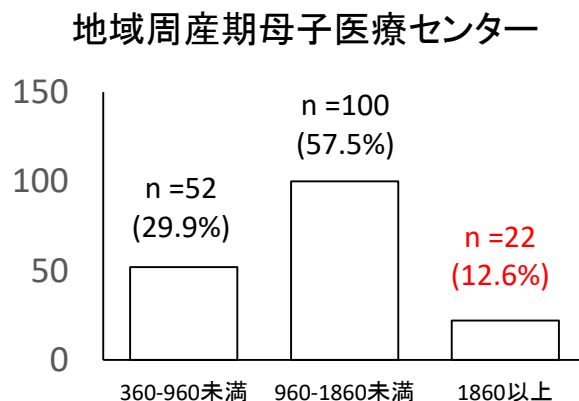
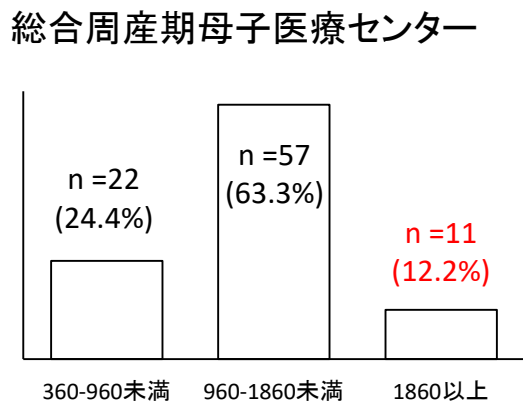
厚生労働省, 医師の働き方改革に関する検討会報告書(3月28日)より抜粋・改変 <https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/000496522.pdf>
 日本産婦人科医会勤務医部会アンケート2018(回収率74%)

研鑽と宿直を考慮しないと, 周産期母子医療センターの平均時間外在院時間は(A)水準を上回る.

東京都における施設機能別時間外在院時間ごとの施設数

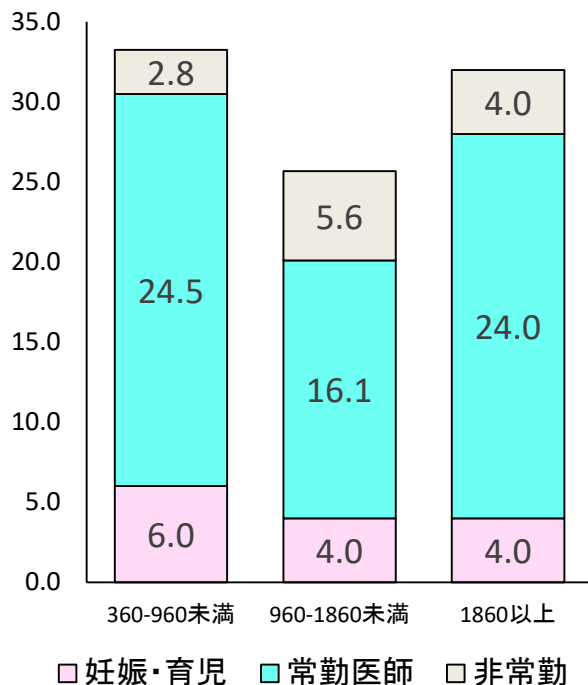


(参考) 全国データ

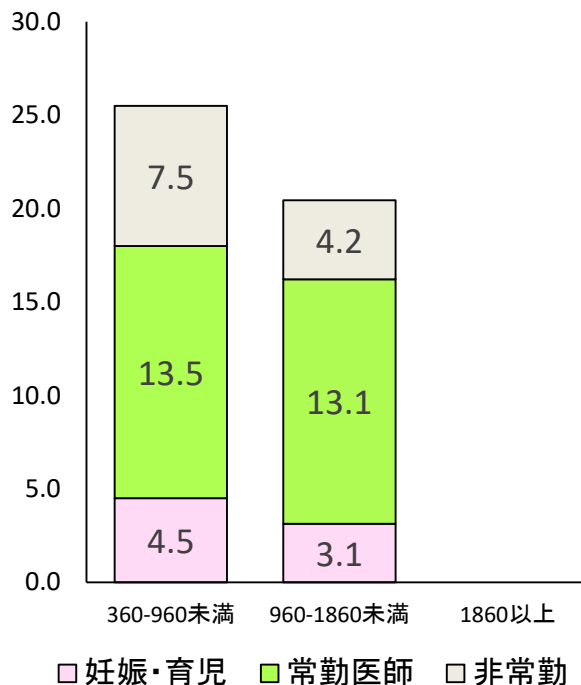


東京都で (A)水準を満たす施設の割合は、総合周産期(33.3%)と一般病院(68.2%)で、全国平均を上回るが、地域周産期(18.3%)では全国平均を下回り、長時間の在院になっている。

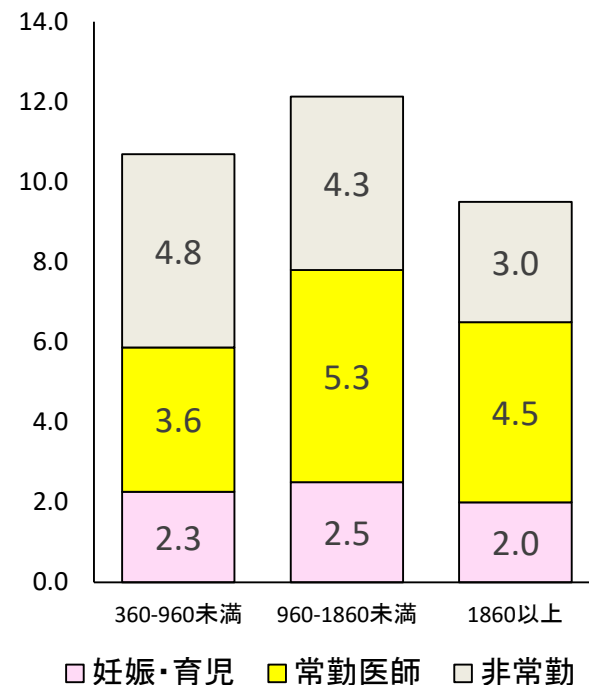
総合周産期母子医療センター
(n = 12)



地域周産期母子医療センター
(n = 11)



指定のない一般病院
(n = 44)



A水準 $13200 \div (960 - 240) = 18.32 = 19$ 人

医師一人当たり時間外労働に回せる時間数

MFICU運営に必要な医師数

交代制勤務を導入し、土日の日直を通常の平日の代わりに行うケース

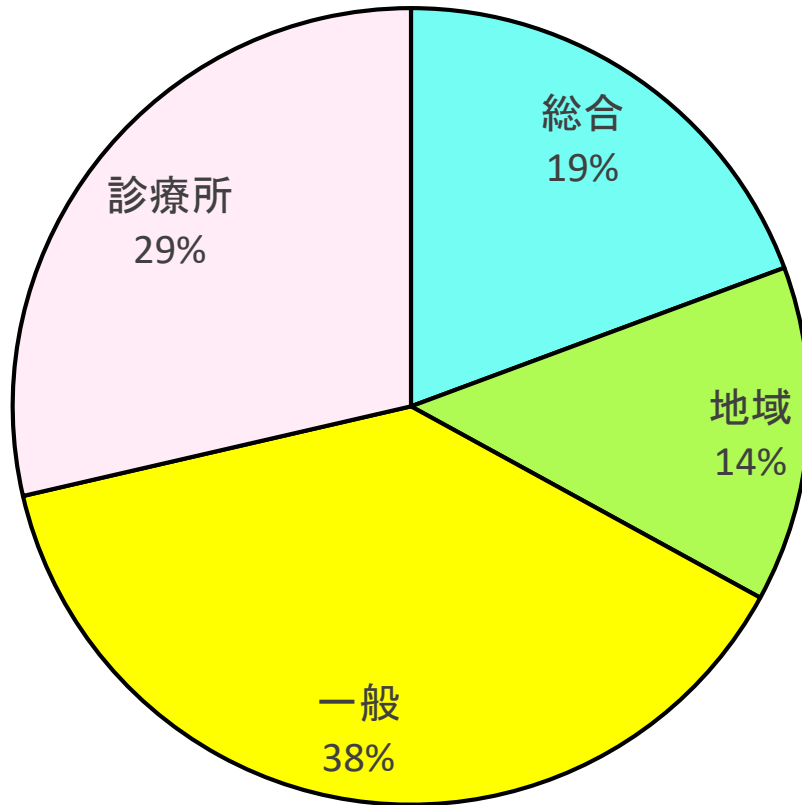
$(6600 - 8 \times 125) \div (960 - 240) \times 2 = 15.4 = 16$ 人

土日の日勤を時間外労働から差し引く 医師一人当たり時間外労働に回せる時間数

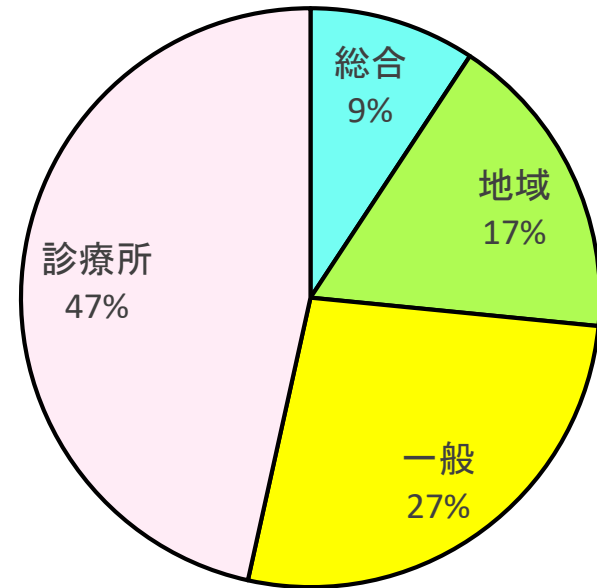
大阪大学 中川 慧

地域周産期母子医療センターと一般病院では、在院時間は非常勤医師数に依存している。

東京都における取扱分娩数の内訳 (2018年分娩数90,109件)



全国平均(参考)



日本産婦人科医会施設情報調査2019(回収率95.8%)

全国に比較し、病院分娩が多く、特に総合周産期母子医療センターと一般病院の占める割合が多い。

まとめ

周産期医療の動向

- ・母体の出産年齢が高齢化し、35歳以上が30%近くに増加している。
- ・妊産婦の高齢化により、偶発合併症が増加し、全体の32.2%を占める。
- ・周産期死亡率は、40歳以上では20歳代の3倍近くになる。
- ・妊産婦死亡率は、40歳以降では20歳代前半の4.7倍で、脳出血、心・大血管疾患などによる間接産科的死亡の割合が、増加傾向にある。

東京都における産婦人科医師数の推移と在院時間

- ・東京都の分娩施設は、一般病院と有床診療所に中心に13年間で、50施設減少し、164施設となっている。
- ・2006年以降、増加傾向であった分娩施設の医師数は2014年をピークに減少傾向に転じている。
- ・研鑽と宿直を考慮しないと、周産期母子医療センターの平均時間外在院時間は(A)水準を上回り、特に地域周産期母子医療センターで全国平均を上回っている。
- ・地域周産期母子医療センターと一般病院の在院時間は、非常勤医師数に依存しており、常勤医師が充足した状態とはいえない。